

**教育に関する事務の管理及び執行の状況
の点検及び評価の結果報告書
(令和元年度分)**

**令和 2 年 9 月
豊山町教育委員会**

目 次

第一部 点検・評価制度の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	1
I 経緯	
II 点検・評価の対象	
III 点検・評価の方法	
第二部 教育委員会の活動状況の点検・評価・・・・・・・・	2
I 教育委員会会議の開催と審議状況	
II 教育委員の活動状況	
第三部 主要施策と事業の自己点検・自己評価・・・・・・・・	3
I 生涯学習の分野・・・・・・・・・・・・・・・・	3
II 家庭教育の分野・・・・・・・・・・・・・・・・	8
III 学校教育の分野・・・・・・・・・・・・・・・・	11
IV 文化財の分野・・・・・・・・・・・・・・・・	22
V 芸術・文化の分野・・・・・・・・・・・・・・・・	24
第四部 学識経験者による評価・・・・・・・・・・・・・・・・	26

第一部 点検・評価制度の概要

I 経緯

平成19年6月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という）が改正され、平成20年4月から、教育委員会は毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価（以下「点検・評価」という）を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出し公表しなければならないとされた。また、点検・評価を行う際には、教育に関して学識経験を有する者の知見を活用することが求められている。

本町教育委員会は、これを受け、地教行法に基づいた教育行政の点検・評価を行い、より質の高い教育行政の推進と町民への説明責任を果たすため、ここに報告書を作成し、公表することとする。

(参考 地方教育行政の組織及び運営に関する法律 (抄))

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

II 点検・評価の対象

令和元年度における教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況

III 点検・評価の方法

本町教育委員会は、令和元年度の実績をまとめ、基本方針と施策に掲げた関連事業を「必要性」、「有効性」、「効率性」、「達成度」の4観点から下記の評価基準によって自己点検・自己評価を行い、報告書にまとめ、令和2年9月の教育委員会会議で議決した。

また、この点検・評価を行うにあたっては、「豊山町教育事務執行等外部評価委員（以下「外部評価委員」という）」の知見を活用し、外部評価委員の意見を報告書に掲載した。

(評価基準)

評価記号	基準
S	良い。現在の水準を維持し継続する。
A	概ね良い。内容を更に充実して継続する。
B	良いが、見直しをし、改善して継続する。
C	評価が低い。抜本的に見直しをするか、廃止をする。

第二部 教育委員会の活動状況の点検・評価

I 教育委員会会議の開催と審議状況

【実施状況と成果】

教育委員会定例会を12回（昨年度12回）開催した。（教育委員会臨時会は0回（昨年度0回））教育委員会会議では、豊山町教育委員会の会議に関する規則の規定に基づき、15件（昨年度20件）の議案を審議・可決したほか、50件（昨年度72件）の報告を受けた。

詳細については、町のホームページで公開している。

【評価と課題・改善策】

教育に関する様々な議題について審議し、教育委員会としての意思決定をするとともに、各種議題や事業の進捗状況等の報告について、教育委員と事務局との意見交換を積極的に行った。

【総合評価】

上記の状況を踏まえ、総合評価は**A**とした。

II 教育委員の活動状況

【実施状況と成果】

① 教育委員は、教育委員会会議のほかにも、関係機関・学校関係諸行事にも参加した。

- ア 総合教育会議 1回（昨年度1回）
- イ 学校訪問（1日訪問） 2校（昨年度2校）
- ウ 町教育委員会学校訪問 2校（昨年度2校）
- エ 校長との合同会議（学校経営の現状報告と情報交換） 3回（昨年度3回）
- オ 入学式、運動会、体育大会等 4校（昨年度4校）
- カ 愛知県市町村教育委員会連合会総会・研修会 1回（昨年度1回）
- キ 愛日地方教育事務協議会会議 6回（昨年度6回）
- ク 西春日井地区教育委員会連絡協議会総会 1回（昨年度1回）
- ケ 西春日井地区教育委員会連絡協議会臨時総会 1回（昨年度1回）
- コ 西春日井地区教育委員会連絡協議会研修会 2回（昨年度2回）

【評価と課題・改善策】

教育現場の現状把握や意見交換を積極的に行うとともに、他の市町との調整・意見交換会議、現地視察等に参加して、幅広い視野から教育の在り方を検討した。

【総合評価】

上記の状況を踏まえ、総合評価は**A**とした。

第三部 主要施策と事業の自己点検・自己評価

I 生涯学習の分野

「生涯学習のまちづくり基本構想・基本計画」(第2期)の期間 平成22年度から令和元年度までの10年間
 テーマ「だれもが学び、学びをつなぐ、人が輝く生きがいタウン」

基本目標1「だれでもどこでも学ぶ意欲を育む生涯学習」

施策

- ① 学習機会を提供し、生涯学習を身近なものにします
- ② 家庭と地域が一体で豊かな心を育てます
- ③ 生涯学習施設などの有効な活用を進めます
- ④ 利用しやすい学習情報を提供します

基本目標2「ともに学び、伝え、交流を広げる生涯学習」

施策

- ① 生涯学習の担い手を広げます
- ② サークル活動を活性化します
- ③ 学習成果を活かす機会を広げ、学びを通して、交流活動を進めます

基本目標3「人が輝くまちづくりにつながる生涯学習」

施策

- ① 地域活動やボランティア活動を支援します
- ② 一人一人の活動がまちづくりにつながる意欲を育てます

5年後の豊山町のめざす姿	子どもからお年寄りまで、誰もが一人一人のライフスタイルに応じて、生涯にわたっていつでも新しい知識を修得したり、学習やスポーツなどの活動を通じて余暇時間をいきいきと過ごすことができる環境が整っている。	総合評価	A
--------------	---	------	---

事業1-1	生涯学習のまちづくりの計画的な推進	評価	S
目標	社会経済の状況、地域での学習環境の変化、学習活動内容の多様化などに対応した生涯学習のまちづくりを一層推進するため、生涯学習基本構想・基本計画に基づき、計画的に生涯学習のまちづくりを推進する。		
実施状況	<ol style="list-style-type: none"> ① 令和元年度は、平成22年度からの生涯学習のまちづくり基本構想・基本計画(第2期)(以下、第2期計画)の最終年度であり、引き続き生涯学習による豊かな心を育むまちづくりを目指した。 ② 令和2年度からの生涯学習のまちづくり基本構想・基本計画(第3期)(以下、第3期計画)の策定にあたって、地域の実情に応じた計画内容とするため、教育分野・福祉分野・ボランティア分野の各代表と公募2名の合計11名の委員で組織する生涯学習推進審議会を3回開催した。 		

評価と改善案	<p>○ 第1回審議会では、第2期計画の実施状況、生涯学習事業の進捗状況、基本構想実践に向けた進行管理を審議・精査し、効果的な事業展開に努めた。</p> <p>○ 第2期計画は令和元年度までの計画であり、今後も、生涯学習社会の実現に向けた方向性を定めるものとしての新たな企画が必要なため、新しい第3期計画を策定した。策定にあたっては、3回にわたり「生涯学習推進審議会」で委員に意見を求め、また、町民を対象にアンケート調査を実施し、ニーズや活動上の課題、生涯学習に対する意向の変化などを把握し、第3期計画に反映させた。</p> <p>○ 令和2年度は第3期計画がスタートする初年度であることから、新たな基本構想及び基本計画を施策の体系に基づいて様々な生涯学習実施計画関連事業を推進する。</p>
--------	--

事業1-2	学ぶ機会の充実	評価	S
目標	町民の主体的な参画や大学や企業との連携を一層強化し、体験型講座や地域に密着した学習メニューなど、町民のニーズに対応した学ぶ機会の拡充に努める。		
実施状況	<p>① 生涯学習講座内容の開催 <『豊山町の生涯学習・令和元年度のまとめ』(以下『まとめ』) P12~20 参照></p> <p>・豊寿大学、中部大学連携講座、シニアのためのiPad、多肉植物の楽しい寄せ植え、ノルディックウォーク教室などの「自己の向上に関するもの」、元気のでる楽しい料理教室、親子パン教室などの「生活の向上に関するもの」の講座を開講</p> <p>② 出前講座の実施 <『まとめ』 P22~23 参照></p> <p>・町内の在住・在勤の方で、10人以上で構成されたグループに対し、行政の仕組みや施策について、町の職員が現地へ出向いて講義を実施。</p>		
評価と改善案	<p>○ 各講座においてアンケート調査を行い、講座への参加意識やニーズなどを把握し、できるだけ反映させ事業の見直しを行った。反映させた事業のひとつ「多肉植物の楽しい寄せ植え」講座は、参加者から好評であった。</p> <p>○ 出前講座は毎年様々な団体が活用され、令和元年度は6団体148人から申し込みがあり、町職員が講師として介護予防や防災について講義を行った。</p>		

事業1-3	学習活動支援の人的体制の整備	評価	B
目標	講師や指導者、ボランティアなど生涯学習に関わる人材を確保・育成するとともに、学習した知識や技術を活用する場の確保に向けた取組を推進する。		
実施状況	<p>① 生涯学習ボランティアバンクの整備</p> <p><『生きがいタウンNo49 P11~12』参照></p> <p>・生涯学習ボランティアの募集と登録(7分野)</p> <p>趣味(将棋・あみもの・陶芸・アレンジフラワー・茶道など)、家庭生活(美容・子育てなど)、教養(韓国語)、体育レクリエーション健康(バウンドテニス・チェックボール・ミニソフトバレー・ウォーキング・ダンスなど)、伝承文化(太鼓・三味線など)、地域活動(生涯学習)、国際交流(交流活動)</p>		

	<p>② サークル登録制度とサークル活動の活性化 <『生きがいタウン No49 P12』参照></p> <ul style="list-style-type: none"> 文化協会や体育協会に所属していないサークルやグループの登録 仲間作りと人材育成のサポートやその手伝い 太極拳（2団体）・スポーツ吹矢・アートフラワー
評価と改善策	<p>○ ボランティアバンクは、対象者が「ふれあいひろば」の場合は、毎週土曜日に活用され成果も高い。しかし、その他の「一般」については活用がされなかった。ボランティアバンクの一般利用については、利用促進のため、広報への掲載やホームページでの紹介などを行い、活用について周知に努める。</p> <p>○ サークル活動においては、登録団体は増えていないが、登録団体の活動に対し問い合わせはある。今後は、サークル情報を提供する啓発活動と情報収集を行い、団体数と参加者の増加に努める。</p>

事業1-4	学習情報の提供と学習相談体制の整備	評価	A
目標	<p>誰もが、いつでも、どこでも、必要な学習情報を的確に入手できる情報提供体制の充実を図る。また、生涯学習に関する相談窓口体制の構築など、生涯学習に関する情報提供、相談体制の機能の充実を行う。</p>		
実施状況	<p>① 情報提供体制の充実 <『まとめ』P23参照></p> <ul style="list-style-type: none"> 生涯学習情報誌「生きがいタウン」(No. 49 (4月号)・No. 50 (9月号))の発行 学校、公共施設、コンビニなどで配布 町ホームページ内のトピックスにリンクを掲載 広報とよやまの「まなびすと」ページでの掲載 広報とよやま1月号から紙面をリニューアルし、生涯学習事業について写真を中心に紹介 <p>② 学習相談体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 生涯学習情報コーナーの設置 (社会教育センター内) 国、県、他市町村、大学、民間などの発行するパンフレットなどの設置 学びネットあいちなど、インターネットサイトの活用による生涯学習相談 相談後の講師やサークルなどの紹介による情報の提供 		
評価と改善策	<p>○ 生涯学習に関する情報提供については、広報とよやま、生きがいタウンなどの紙媒体だけでなく、町ホームページや「とよやまみんなのチャンネル」でも情報提供を行った。</p> <p>広報とよやま1月号から「まなびすと」コーナーをリニューアルし、写真を中心に生涯学習事業の魅力について紹介した。</p> <p>今後は、町ホームページで生涯学習事業についてさらに検索をしやすいよう努める。</p>		

事業1-5	学習環境の整備と活用	評価	A
目標	<p>社会教育センターやスポーツ施設のほか、学校体育施設や学習等供用施設の設</p>		

	備の充実、生涯学習以外の目的で設置された施設や設備の生涯学習活動での利用拡大を図る。特に、社会教育センターでは航空宇宙関連の図書コーナーを充実する。
実施状況	<p>① 施設予約システムの整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットによる予約受付（平成22年度導入） <p>② 社会教育施設の利便性向上 <『まとめ』P34～41 参照></p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育センターの利用状況（アリーナ・ホール・研修室など） 年4,446件利用【前年比259件減】 開館日数308日 1日平均約11件 ・学習等共用施設の利用状況（東部・新栄・富士の3施設） 年4,452件利用【前年比479件増】 開館日数360日 1日平均約12件 <p>③ 豊山スカイプールの利用 <『まとめ』P40 参照></p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月7日（土）～9月9日（日）の63日間開場（2日間は休場日） 合計入場者数36,981人【前年比7,823人減】 1日平均587人
評価と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 7月に天候不良が続いたことにより、豊山スカイプールの入場者数は昨年度より大幅に減少した。団体利用の招致等、来年度以降利用者増に努める。 ○ 航空宇宙関連図書コーナーへポップを設置し、他館にはないFDAの機内誌を配架するなど同コーナーの充実に努め、利用者からは好評を博した。今後は、広報や図書室だよりでもPRを行うとともに、より一層の充実に努める。

事業1-6	読書活動の推進	評価	A
目標	本に親しむ環境を整え、児童生徒に豊かな情操を育成する。社会教育センター図書室を中心に関係機関と連携を深めながら子ども読書活動推進計画の実践に努める。		
実施状況	<p>① 社会教育センター図書室の利用状況 <『まとめ』P35 参照></p> <ul style="list-style-type: none"> ・開館日数年265日【前年比7日減】、貸出冊数年合計41,049冊【前年比2,559冊減】 <p>② 豊山町子ども読書活動推進計画の実践 <『まとめ』P37 参照></p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊山町子ども読書活動推進委員会（年3回実施）の開催 利用者カード申請書の配布（新1年児童）、新刊図書の案内配布、学校図書館バーコード化への取組、読書活動の情報交換 ・親子読書会（年4回実施）（幼児・児童とその保護者対象） 大型紙芝居・ペープサート劇・手遊び・おもちゃ作りなど 参加者合計96人（1回平均24人）【前年比20人増】 ・おはなし会（月1回実施）（幼児・児童とその保護者対象） 絵本読み聞かせ 参加者合計101人（月平均8.4人）【前年比49人減】 		
評価と改善策	○ 平成28年3月に子ども読書活動推進計画（第二次）が策定され、読書活動を推進しているが、新型コロナウイルス感染予防対策のため1か月程度閉室したことにより、貸出冊数は減少した。少子化にもかかわらず、おはなし会や絵本読み聞かせ会については、地道で熱心な活動により、読書活動推進に貢献して		

	いる。
--	-----

事業1-7	社会体育・生涯学習スポーツ活動の推進	評価	S
目 標	スポーツ推進委員・体育振興団体の活動を支援し、社会体育・生涯学習スポーツ事業を充実する。		
実施状況	<p>① 第48回町民体育大会の開催 <『まとめ』P26 参照></p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月6日(日)開催 参加者2,300人【前年比増減なし】 <p>② 第14回愛知県市町村対抗駅伝競走大会の出場<『まとめ』P27 参照></p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月7日(土)開催 記録16町村中10位【前年14位】 <p>③ 社会体育・生涯スポーツの振興 <『まとめ』P15~19 参照></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児体操教室、ノルディックウォーク教室、ボルダリング等体験教室など、子どもからシニア世代まで参加できる講座を開講した。 <p>④ 第12回とよまエアポートビューマラソン【中止】</p>		
評価と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 町民体育大会は、毎年、実行委員会形式により町民主体の運営が行われている。令和元年度は熱中症対策などを考慮し一部プログラムの変更と開催時間を短縮した。今後も多くの町民が参加しやすい大会にするため、時代に即したプログラムの採用などを検討する。 ○ 愛知駅伝は、令和元年度は強化対策会議を設置し、選手候補者の選考や練習回数の確保に努めることにより、前年度より順位を4つ上げた。また、広報とよまや町ホームページ等において練習会の様子や選手の紹介など愛知駅伝に関する情報発信を今まで以上に積極的に実施した。 ○ 生涯学習講座(スポーツ)は、スポーツ推進委員の協力のもと、親子で参加する競技や高齢者向け競技の紹介を促進したり、各講座・教室の内容や時期回数を見直しをしたりして、多世代参加型の生涯スポーツ普及を推進した。 ○ とよまエアポートビューマラソンは、県営名古屋空港に隣接する神明公園を発着点に、空港滑走路を望めるコースを走る大会で、例年多くのランナーが参加し、盛大に開催されている。令和元年度は新型コロナウイルス感染拡大を考慮し中止となった。 		

II 家庭教育の分野

5年後の豊山町のめざす姿	親子の対話やしつけなど家庭での親の役割が適切に発揮され、家族のふれあいが深まっています。また、学校と家庭、地域が一体となって子育ての支援や家庭教育を進めている。	総合評価	A
--------------	--	------	---

事業2-1	家庭の教育力向上への支援	評価	A
目標	乳幼児学級や家族ふれあい事業、絵本の読み聞かせなど乳幼児を対象とした事業を推進するとともに、体験活動など親子の学習機会の充実を目指す。また、子育てサークルの支援や親同士の情報交換、交流機会の拡充により子育てネットワークの構築を図る。		
実施状況	<p>① 乳幼児学級事業 <『まとめ』P42 参照></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「絵本で子育てで楽しみませんか？」参加者 10 組 21 人 ・「はじめてのアートセラピー ～パステルアートを描いてみよう～」参加者 13 組 26 人 <p>② 家族ふれあい事業 <『まとめ』P42・43 参照></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族芸術劇場 内容 俳優館 うつくしいニッポンのおはなし むかしばなし「こぶとりじいさん」、新美南吉「手袋を買いに」 入場者 午前・午後の部合計 180 人 ・家族ふれあいコンサート びよびよコンサート 3 回 参加者合計 37 組 74 人 <p>③ 家庭教育講演会 <『まとめ』P43 参照></p> <ul style="list-style-type: none"> 演題 「どうすれば人が輝くのか」 講師 株式会社てっぺん代表取締役 大嶋啓介氏 参加者 56 人 		
評価と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 乳幼児学級は、子育てに役立つ講演会を行い、若い母親たちに家庭教育の重要性を訴えることができた。また、各回のポスターを作成し、町内の公共施設の他、スーパー等の商業施設にも掲示し、周知に努めた。 ○ 家族ふれあい事業の家族芸術劇場は、昨年度より入場者が減少した。今後はニーズにあった演劇内容を公演する必要がある。 家族ふれあいコンサートは、お子さんと保護者が一緒になって楽しめるミニコンサートを提供し、子育て中の母親のリフレッシュ、子どもたちの情操発達の醸成を図った。 ○ 家庭教育講演会は、子育てや子どもの関わりをテーマとした講演会となった。 		

事業2-2	地域の教育力向上への支援	評価	A
目標	子育てや家庭教育に関する相談体制の充実や講演会の開催をはじめ、子どもが		

	安心して安全に放課後活動に取り組める環境づくり、家庭教育事業への父親の参加促進など、地域で家庭教育を支える体制を充実する。
実施状況	<p>① ふれあいひろば事業 <『まとめ』P44・45 参照></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学生だけでなく、保護者や地域の大人も参加できる多世代参加型の文化・スポーツ教室 ・陶芸・茶道・太鼓・三味線・将棋・バウンドテニスなどの15種目 <p>② 放課後子ども教室事業 <『まとめ』P46 参照></p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象 豊山小学校児童1年生～3年生 登録65名（1年19名・2年20名・3年26名）【前年比1名減】 登録率32%【前年比1%減】 ・開催日 給食のある月・木曜日の下校～午後4時 延べ年70回 ・活動内容 学習・工作・読書・外遊び・地域住民による交流体験活動（三味線・絵本読み聞かせ・昔の遊び・ペープサート劇・卓球など）
評価と改善策	<p>○ 支援コーディネーターと支援員の個に応じたきめ細かな温かい指導により、放課後の安心安全な居場所を年間通じて提供することができ、子どもたちの健全育成に貢献することができた。今後は、放課後児童クラブと効率的・効果的な運用による放課後児童の居場所づくりを推進していく必要がある。</p> <p>○ ふれあいひろばは、子どもたちだけでなく、保護者や家族・地域の大人たちも参加できる多世代参加型の事業であり、多世代参加を促進するとともに、土曜日の子どもの「居場所づくり」事業の趣旨並びに青少年健全育成体制の整備の一環として、地域のボランティア指導者の協力のもと事業を推進している。しかし、ボランティア指導者の高齢化が進み、今後は後継者づくりを進める必要がある。</p>

事業2-3	子どもの豊かな心を育む学習支援	評価	S
目標	青少年健全育成団体のネットワークを強化する中で、青少年リーダーの発掘・養成を図るとともに、スポーツ少年団や子ども会の活性化、青少年健全育成のための諸活動の充実連携に努める。		
実施状況	<p>① 青少年育成 <『まとめ』P47～49 参照></p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年の非行・被害防止に取り組む県民運動（夏季・冬季） 少年補導委員・学校職員・PTAによる合同街頭指導での啓発活動 ・青少年育成会議の開催（1回） 青少年育成活動事業計画等について ・青少年育成巡回指導事業 夏季（4回）延べ16人参加、冬季（4回）延べ16人参加 <p>② スポーツ少年団への支援 <『まとめ』P50～53 参照></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ少年団の登録率21.3%【前年比0.2%減】 空手29人、卓球47人、バレーボール12人、野球75人、サッカー59人、剣道10人 合計232人【前年比1人減】 ・関市上之保地区スポーツ少年団（岐阜県奥山キャンプ場）との野外交流 		

	<p>2泊3日（キャンプファイヤー・魚のつかみ取り・炊飯など）</p> <p>③ 子ども会活動への支援 <『まとめ』P54 参照></p> <p>・ドッジボール大会、カローリング交流会、どろんこ教室、子どものつどい、長野県阿智村交流会、子ども会新聞発行への支援</p>
<p>評価と改善策</p>	<p>○ 青少年育成は、愛知県の主唱する県民運動に沿って、各種の健全育成事業を行った。合同街頭指導や巡回指導については、小中学校の生徒から標語の募集を行い、そのうちの代表作品をティッシュペーパーの啓発メッセージに活用することにより啓発の効果を高めた。</p> <p>○ スポーツ活動・清掃奉仕活動などを通じて、小学生を中心に、体力づくり・スポーツ技能向上・児童生徒の健全育成に大きく寄与している。</p> <p>○ 子ども会では、ドッジボール大会や長野県阿智村交流会など活気のある催事が開催され、子どもの心身共に健全な発達に寄与している。また、中高生を中心としたジュニアリーダークラブが平成30年4月に設立され、町の子ども会行事のサポートや運営スタッフとして活動している。</p>

III 学校教育の分野

5年後の豊山町のめざす姿	子どもたちが基本的な学力を身に付け、道徳教育や体験活動を通じて命と人権を大切に、夢に向かってともに生きる心を育てています。また、教員は教育の専門家として自覚を高め、高い実践力と指導力を備えている。	総合評価	A
--------------	--	------	---

事業3-1	地域に開かれた学校経営の推進	評価	A
目標	学校評議員や学校関係者評価委員による学校評価活動に保護者をはじめ地域住民の参画を促し、地域全体で学校経営を評価・改善していく取組を推進する。		
実施状況	<p>① 学校関係者による学校評価委員会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒や保護者の外部アンケート分析を含めた自己評価の実施 ・学校評議員や保護者で組織する学校関係者評価委員会の開催（各校2回） <p>② 地域住民参画の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【3小学校】「民生・児童委員と小学校との懇談会」での情報交換と交流 ・【豊山小】学校評議員・安心クラブや地域の外部講師の方々へ学校行事の案内、読み聞かせ・図書館環境整備への保護者・地域のボランティアの参加 ・【新栄小】マラソン大会などの学校行事に多くの保護者・地域の方々の参観読み聞かせ、資源回収、地域清掃などへの保護者・地域ボランティアの参加 ・【志水小】地域のゲストティーチャーによる出前講座の積極的活用読み聞かせ・図書館環境整備への保護者・地域のボランティアの参加 ・【豊山中】「民生・児童委員と中学校との懇談会」での情報交換 		
評価と改善策	○ 学校関係者評価委員会の意見を取り入れ、保護者を講師としたキャリア教育を実施するなど、地域に開かれた学校経営を推進した。さらに、保護者や地域の声を聞く機会の増加に努める。		

事業3-2	学習指導・教育環境の整備拡充	評価	A
目標	全小中学校の非構造部材の耐震対策を進める。また、将来的な建替えも含めた改修計画を策定し、防犯性・教育環境の向上、情報教育への対応のための施設・設備の整備・改善を進める。		
実施状況	<p>○ 学校施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【全小中学校】普通教室空調設備工事 ・【豊山小】トイレ給水管改修工事、駐車場排水路等改修工事、プール槽シーリング補修工事、空調機取替工事 ・【新栄小】給食用リフト改修工事、一輪車練習場整備工事、運動場排水路等改修工事、空調機設置工事 ・【志水小】樹木園整備工事、樹木園整備（植樹等）工事、救助袋取替工事、屋外スピーカー取替工事、駐車場整備工事、老木等撤去工事 ・【豊山中】給水ポンプ取替工事、インターロッキング等補修工事 		

評価と改善策	○ 全小中学校の普通教室の空調設備工事が完了し、学習環境が改善された。今後、特別教室への空調設備工事に着工し、学習環境の更なる改善を進める。各校とも校舎の老朽化が進行しているため、整備・改善に係る計画策定に取り組んでいる。
--------	---

事業3-3	特色ある学校教育の推進	評価	S
目標	子どもの基礎学力の向上や豊かな心を育てる特色ある学習活動や教育活動を実践する。外部講師の招へいや学校行事への地域住民の積極的な参加を促すなど、地域や企業・事業所等との連携による開かれた教育活動を推進する。		
実施状況	<p>○ 地域等との連携による教育活動の実践例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【3小学校】 あいち航空ミュージアム見学（6年生）、どじょう寿司を味わう会（3年生）、ペープサート鑑賞会（1・2年生） ・【豊山小】 茶道教室（6年生）、魚のさばき方教室（6年生）、福祉施設「いの木」「しらゆりの里」訪問（5年生）、和太鼓教室（4年生）、豊山関との交流イベント（1年生） ・【新栄小】 一輪車検定・親子音楽鑑賞会（名古屋フィルハーモニー管弦楽団）、声楽家による歌唱指導（全児童）、運動会ダンス（1～4年生）、三菱名古屋吹奏楽団とのコラボコンサート（合唱 3～6年生）、いろはに邦楽、魚のさばき方教室、戦争体験を聞く会（6年生）・大山川水生生物調査（5年生）、特別養護老人ホーム「あいせの里」訪問（4年生）、豊山太鼓の体験、昔の話を聞く会（3年生）、野菜づくり（サツマイモ・タマネギ）（2年生） ・【志水小】 アルミ缶・エコキャップ回収活動・芸術鑑賞会（全児童）、北部市場による「魚大好き命の講座」（5年生）、戦争体験を聞く会（6年生）、和太鼓出前講座（3・4年生）、手話サークル出前講座（4年生）、 「（保護者による）教えてもらおう 仕事のあれこれ」（5・6年生） ・【豊山中】 長野県治部坂高原スキー場でのスキー研修（1年生） 		
評価と改善策	○ 中学校での、全生徒参加のスキー研修は、本町独自の事業であり、生徒からも好評を得た。また、あいち航空ミュージアム見学、どじょう寿司を味わう会など地元の特色や財産を十分に活用して教育活動を進めた。今後、航空産業の町である特色を生かした取組や、国際交流を取り入れた取組をさらに進める。		

事業3-4	健やかな児童生徒の育成	評価	S
目標	児童生徒が健康で安心して義務教育を受けられるよう、食生活の指導や健康診断の実施、心理カウンセラーによる相談事業など児童生徒の心身にわたる健康の維持・増進を図ります。登下校時の安全対策や不審者対策など安全体制の確立、特別な支援教育を要する児童生徒への支援・指導を推進する。		
実施状況	<p>① 年間を通した学校保健計画での取組（保健教育での実践）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「保健体育」や関連した教科（生活科・家庭科など）による保健学習 <p>② 各校での学校保健活動の取組例</p>		

	<ul style="list-style-type: none"> ・【3小学校】「早寝早起き朝ごはん」運動、むし歯予防「フッ化物洗口」（7年目）、とよやま健康マイレージへの参加、「生活チェックカード」の活用など ・【豊山小】全国歯みがき大会に参加（5年生）、すこやか集会（2回） ・【新栄小】全国歯みがき大会に参加（4年生）、保健委員と給食委員による「食に関する児童集会」 ・【志水小】全国歯みがき大会に参加（5年生） ・【豊山中】薬物乱用防止教室（2年生）、WYSH教育（3年生） <p>③ 安心安全講習会の開催（学校安全計画による）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【3小学校】自転車での交通安全教室（3年生） ・【豊山小】警察音楽隊による交通安全啓発活動（全児童） ・【豊山中】保護司の方による薬物乱用防止教室護（2年生司の方による薬物 ・【3小学校・保護者】安心安全講習会（特定非営利活動法人あいちCAPプラス） <p>④ 通学路点検・ブロック塀緊急点検の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学路交通安全プログラムにより、尾張建設事務所、西枇杷島警察署及び関係機関による通学路点検（通学路のカラー塗装などの要望） ・ブロック塀の緊急点検、豊山小学校敷地内のブロック塀の撤去 <p>⑤ 町支援員の加配</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育支援員4名（豊山小2名、新栄小1名、志水小1名） ・語学支援員（中国語）1名（豊山中） ・町採用スクールカウンセラー2名（豊山小1名、志水小1名）
評価と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校全体による年間を見通した計画的な実践により、児童生徒の健全育成が図られた。 ○ 通学路点検、及び、交通安全指導により、交通安全体制の充実を図り、児童生徒の大きな交通事故も発生していない。不審者対応など、通学路のさらなる安全に努める。 ○ スクールカウンセラーの相談事業が充実し、小中連携を進めた。

事業3-5	安全で安心できる学校給食の提供	評価	A
目標	新給食センターの建設や新たな調理システムの導入に向けた調査研究を行うなど、学校給食体制を充実し、食の安全確保や食育の取組を推進する。		
実施状況	<p>① 給食センター運営・献立委員会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食センターの建て替えに関する審議 ・給食センターの業務や献立についての調査研究と審議 <p>② 食育の講習会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【全小学校】どじょう寿司を味わう会：町おこしの会（3年生） ・【豊山小】魚のさばき方教室：北部市場（6年生）、茶道教室：PTA 茶道部 ・【新栄小】魚のさばき方教室：北部市場（6年生） ・【志水小】五平餅づくり：出前講座 東邦ガス（5年生）、魚大好き命の講座：北部市場（5年生） 		

	<p>③ 食の安全講習会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【全小中学校】食物アレルギー児童の保護者との面談（4月当初） エピペン研修会（対処法）へ参加、食の安全講習会 年1回開催、対象者 調理員・配膳員・栄養教諭・用務員・学校給食主任など
評価と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の特色を活用した取組が増え、昨年度以上に食育の充実が図られている。 ○ エピペン対処の児童生徒が年々増えてきており、食物アレルギーへの対応には給食センターと協力し、事故のないよう細心の注意を払っている。 ○ 新給食センター建設工事は順調に進んでおり、地域に対しても丁寧に周知を図っている。

事業3-6	教員の資質向上	評価	A
目標	町内小中学校における授業研究を中心とする校内現職教育を進め、教員の資質向上（教師力向上）をめざす。		
実施状況	<p>① 校内現職教育の充実（現職教育の研究テーマ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【豊山小】「確かな学力を身に付けた児童の育成」 —基礎・基本の定着を図る授業実践を通して— ・【新栄小】「自ら気付き、関わりあいを通して考えを深め、粘り強く追究する児童の育成」 —発問と話し合い活動の工夫を通して— ・【志水小】「深く考え、判断し、自分のことばで表現できる児童の育成」 —聴き合い、学び合う活動を通して— ・【豊山中】「確かな学力を身に付けた生徒の育成」 —主体的に聴く・対話的に考える学び方(学び合い)を通して— <p>② 豊山町夏季研究協議会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領（主体的・対話的で深い学び）を踏まえ、タブレットやiPadでシンキングツールを使った指導方法についての研修（町内全教員参加 講師：関西大学 総合情報学部 黒上 晴夫氏） 		
評価と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各校では現職教育の研究テーマのもと校内研修を充実させ、授業力が向上した。 ○ タブレットを活用し、研究協議会などを通して新学習指導要領の趣旨を取り入れた指導方法を研修した。 ○ ICT機器の活用など、指導方法が児童生徒に有効に働くよう、さらに研修と検証に努める。 		

事業3-7	魅力ある教員の養成	評価	A
目標	経験豊かな教員の実践的知識や指導技術を次世代に引き継ぎ、若手教員を確実に育成する。		
実施状況	<p>① 経験や職務内容に即した研修会への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習や生徒指導など、実践的指導力の向上（初任者研修・10年経験者研修） ・専門職としての資質能力の向上（養護教諭・特別支援学級担任・事務主任・保 		

	<p>健主事・生徒指導主任など)</p> <p>② 町講師研修会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 町採用非常勤講師（14名）研修会（4回） <p>教員としての心構え、研究テーマをもとにした授業実践、『実践報告書』の作成、研究協議会の開催</p> <p>③ 不祥事根絶に向けた研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 体罰・暴言、セクハラ・わいせつ、情報漏洩、交通事故・違反の防止 不祥事根絶に向けた小グループでの話し合いの取組
評価と改善策	<ul style="list-style-type: none"> 町講師対象の研修会は、実践的内容であり、若手教員の育成に効果的であった。 若手教員の急増により、どの学校も、若手教員とミドルリーダーの育成にOJTを取り入れた研修を充実させた。不祥事防止に向けた研修に力を入れていく必要がある。

事業3-8	校務支援の推進	評価	A
目標	会議等の削減、組織の効率化を図り、校務処理のIT化・共同実施化を推進し、教職員の負担を軽減する。		
実施状況	<p>① 会議の削減・校務の軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> 校務支援システム活用の推進（連絡掲示板、C4th会議室） ペーパーレスの導入、企画委員会や朝の打ち合わせの廃止・精選 ICT研修会（ソフトウェア活用研修会）の取組、定時退校日の設定 【豊山小】会議資料の電子化の推進、「部活なしデー」、朝の打合せの削減、部活動終了時刻の見直し、留守番電話の導入 【新栄小】ICT機器を活用した授業の展開、朝の打ち合わせの削減、部活動なし週間の設定、会議資料の電子化の推進 【志水小】ペーパーレスへの取組、部活動終了時刻の見直し、「部活なし期間」の設定、学校行事の見直し、退勤予定時刻板（かえるボード）の活用 【豊山中】打合せ・会議の精選、「部活なしデー」の設定 <p>② 学校事務の共同実施化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> C4thの活用による事務処理の効率化・適正化 子どもと向き合う時間の確保に向けて、C4th掲示板でのやりとりの実践 豊山町共同学校事務室としての事務処理 事務職員のOJTの推進 <p>③ 総合教育会議での審議</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合教育会議で働き方改革について審議し、体系的に取り組んだ。 		
評価と改善策	<ul style="list-style-type: none"> 国や県の働き方改革の方針のもとに、教職員の多忙化解消のため、「会議の持ち方（回数・資料の削減など）の改善」「定時退校日の設定」「部活の休養日の設定」などの教職員の負担を軽減し、子どもと向き合い、教育に専念できる環境づくりを推進している。 地教法第47条の5に規定されている、共同学校事務室については例規整備 		

	<p>を行い、平成31年4月に立ち上げた。</p> <p>○ 共同学校事務室により校務の効率化を推進し、教職員の負担軽減に努める。</p>
--	---

事業3-9	教員に対する支援チームの結成	評価	A
目標	保護者・地域からの要望には学校全体で対処し、その解決に全力を尽くす。状況に応じて関係機関との連携を図る。		
実施状況	<p>① 教員を支えるサポート組織</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域からの苦情には教員一人で悩まず、学校全体で対処し、スクールカウンセラーやPTAを含む全校でのサポート態勢の確立 ・関係諸機関との連携・活用を積極的に図る。 <p>② 外部ボランティアやゲストティーチャーによる支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【3小学校】地域住民による絵本の読み聞かせ・ペープサート劇鑑賞、老人クラブによる登下校見守り隊、どじょう寿司を味わう会など ・【新栄小】「おやじの会」のボランティア活動、戦争体験を聞く会 ・【志水小】戦争体験を聞く会、「教えてもらおう 仕事のあれこれ」（保護者による仕事の話の聞く会） <p>③ 企業・事務所との連携による支援（キャリア教育と兼ねる）</p>		
評価と改善策	○ 外部のボランティアや講師の協力的な支援は、多種にわたり、児童生徒の育成の手助けになった。必要性の増している通学路の安全確保をはじめとする学校をとりまく諸課題について、登下校での見守り隊や関係諸機関とのさらなる連携を進めるよう努める。		

事業3-10	キャリア教育の確立	評価	A
目標	キャリア教育の充実に取り組み、児童生徒の発達段階に応じた勤労観や職業観を育成する。		
実施状況	<p>① キャリア教育に関わる出前講座の活用【3小学校の実践例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生 地元農家による「さつまいも掘り・タマネギ収穫」 ・3・4年生 地元農家による「農家の仕事を聞く会」「タマネギ収穫体験」 ・5年生 名古屋市中央卸売市場北部市場による「魚大好き命の講座」 県職業能力開発協会による「ものづくり（左官・大工）出前講座」 地元音楽関係者による「いろはに邦楽」 航空会社の現役パイロット・客室乗務員による「FDA航空教室」 航空機製造会社による「MR J出前教室」 ・6年生 名古屋市中央卸売市場北部市場による「魚のさばき方教室」 地元業者・ものづくりマイスターによる「和菓子づくり講座」 愛知県建設部による「まちづくり出前講座」 あいち航空ミュージアムの見学 ・5・6年生 保護者による仕事の話の聞く会「教えてもらおう 仕事のあれこれ」 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級 「陶芸体験教室」 <p>② 職場体験学習・進路学習の実施【豊山中の実践例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生 町役場・総合福祉センター「しいの木」・保健センター・保育園・幼稚園をはじめ、44か所の公共施設・福祉施設・商業施設で職場体験 ・2年生 高等学校17校への「上級学校（高校）訪問」、「生き方を学ぶ会」の開催
評価と改善策	<p>○ 小学校では出前講座により、中学校では職場体験学習により、職業観を育成するキャリア教育を推進した。特に、空港や航空機産業についての学習は、地元豊山町の将来を見据えた大切なキャリア教育教材であり、今後も推進するよう努める。</p> <p>○ 今後も、地域の人材や施設を積極的に活用し、専門的な知識をもっている社会人や職業人の外部講師から直接学ぶ機会を増やす取組で、勤労観や職業観の育成を進めるよう努める。</p>

事業3-11	英語教育と小学校外国語活動の推進	評価	A
目標	<p>小学校からの英語教育を充実させ、効果的な実施を進める。異なる文化や価値観を尊重し、豊かな国際性を育むために、国際理解教育の充実を図る。</p>		
実施状況	<p>① ALT（外国語指導助手）の配置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALTと担任とのTT（ティーム・ティーチング）による英語教育の推進 小学1年生からの英語によるコミュニケーション能力の育成 1・2年生「国語や生活科」年3時間、3・4年生「外国語活動」年15時間の実施 ※ 外国語専科教員の配置 ・【豊山中】主体的・対話的で深い学びを目指した音読劇の取組—ALT とのTeamTeaching— <p>② 校内現職教育（英語）の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校外国語科新設を踏まえ、小学校英語の指導方法についての研修（3小学校実施 講師：愛知県立大学 准教授 池田周先生） ・教務主任を中心にお互いの学校の授業を参観し、情報共有を行った。 <p>③ 英会話への挑戦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【豊山中】各種英語スピーチコンテスト入賞、英語朗読コンテスト優秀賞（英語部）、グラント郡訪問団との国際交流事業 		
評価と改善策	<p>○ 小学校では、令和2年度からの「外国語（英語）」の教科化に向けて、研修の推進を図り、教員の指導力を高めた。</p> <p>○ 外国人や英語に触れる機会を増やすよう努める。</p>		

事業3-12	情報教育の推進	評価	A
目標	<p>ICT機器を活用し、児童生徒に情報活用能力や情報モラルを育成する。</p>		
実施状況	<p>① ICT機器の効果的な活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【3小学校】ICT機器の効果的な活用を現職教育のテーマに導入 		

	<p>デジタル教科書や書画カメラの活用、効果的で分かりやすい教材提示の工夫、ICT機器を取り入れた授業の質の向上、タブレットの活用、iPadの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【豊山中】社会科・国語科・体育・美術の授業での効果的な活用（写真・動画など） <p>② 情報モラル育成の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【全小中学校】保護者参加の「携帯スマホ安全教室」の開催 町作成保護者向け資料『ネットトラブルから子どもを守るために』の活用 ・【新栄小】「情報モラル教室」（6年生と保護者） ・【志水小】「情報モラル教室」（3～6年生と保護者） ・【豊山中】技術・家庭科での授業を核とし、他教科でのタブレットPCの活用、コンピュータやSNSで入手した情報の適切な活用能力の育成
評価と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○ ICT機器の積極的な活用によって、児童生徒に基本的な知識・技能を定着させることができ、情報活用能力の育成に寄与することができた。小中学校では、ICT機器（タブレットPCやiPad）の活用を進めている。 ○ 情報モラルの育成は、情報化社会において必要不可欠であるため、ICT機器の活用推進と併せて取り組むよう努める。

事業3-13	就学援助の充実	評価	A
目標	児童生徒の教育機会を保障するため、保護者に対して経済的な援助を行う。		
実施状況	<p>① 就学困難者への援助の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学援助制度に基づいた援助の実施 ・経済的な理由によって就学困難と認められる児童生徒の保護者 ・経済的な負担軽減のための特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者 <p>② 教育振興事業による援助（全児童生徒）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の副読本、夏休み冬休みの日誌、知能検査、学力検査（CRT） <p>③ 準要保護者への就学援助費・奨励費の支給</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学用品費・通学用品費・校外活動費・新入学生用品費・修学旅行費・学校給食費の支給 ・就学予定者への新入学生用品費前倒し支給の実施（平成30年12月から） 		
評価と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 就学援助を必要とする保護者に、就学援助制度の周知を積極的に図り、経済的な援助を行うことで、適正な就学援助を充実させることができた。 		

事業3-14	道徳教育の推進	評価	A
目標	これまでの道徳教育や体験活動の在り方を見直し、地域共同体の中において地域の人材による学校支援ボランティアを活用し、豊かな心を育成する観点を一層重視する。		
実施状況	<p>① 挨拶・ふれあいでの交流【3小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校支援ボランティアによる登下校での挨拶運動と見守りでの交流 		

	<p>② 読み聞かせの実施【3小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTAや地域ボランティアによる本の読み聞かせを定期的を実施 本への興味・関心を高め、読書習慣の育成と定着化 <p>③ 地域（学校）支援ボランティアによる交流活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【3小学校】親子除草作業などでの交流、和太鼓教室、読書クラブボランティアによるペープサート鑑賞、どじょう寿司を味わう会 ・【豊山小】木遣りを聴く会、神楽を学ぼう、和太鼓体験 ・【新栄小】バラの剪定指導、昔の話を聞く会 ・【志水小】戦争体験を聞く会 ・【豊山中】町主催の健康フェスティバルや防災訓練での交流 <p>④ 道徳の授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の教科化に伴い、議論する道徳に向けた授業研究や研修の実施 ・評価方法についての検討
評価と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多くの地域の学校支援ボランティアとの交流・ふれあいが、児童生徒の豊かな心の育成の一助となった。地域住民と子どもたちを結ぶ地域の絆づくりを今後も進めていく。 ○ 道徳の授業が生かされる交流活動の場となるように、工夫していく。

事業3-15	学校体育・スポーツ活動の推進	評価	S
目標	<p>体力向上に向けた取組を学校体制で実施する。部活動や対外活動を支援するための外部指導員を拡充する。</p>		
実施状況	<p>① 体カづくりの工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【豊山小】なわとび集会・クラス対抗長なわとび（年1回）への積極的な取組 ・【新栄小】一輪車・なわとび運動・マラソン運動への積極的な取組 ・【志水小】なわとび運動・志水っ子ランニング <p>② 小学校での水泳教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【志水小】「水泳教室」（15m泳げない3年生を対象）による成果 <p>③ 部活動での活躍</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【中学校】＜豊山中学校の地区大会・愛日大会・県大会の主な結果＞ 野球部（地区準優勝） 男子バレーボール部（地区準優勝） 男子ソフトテニス部（地区準優勝） 女子ソフトボール部（地区準優勝） 女子卓球部（地区3位） <p>④ 部活動振興事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【豊山小】外部指導員による部活動支援（バトン部） ・【豊山中】外部指導員による部活動支援（野球部・ソフトボール部） <p>⑤ 「部活動指導ガイドライン」の策定（平成30年10月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の総合的指導方針として策定した。 		

評価と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体力向上に熱心な取組の結果、小中学校とも部活動ではよく健闘した。 ○ 部活動指導ガイドラインにより、全小中学校が同一歩調で活動方針を打ち出すことができた。 ○ 外部指導者の拡充に向けては、部活指導の意義や指導方法と指導方針について学校との共通理解に努める。
--------	--

事業3-16	いじめ・不登校への対応	評価	A
目標	いじめを許さない学級・学校づくりを進める。スクールカウンセラーや専門家による学校支援の充実を図る。適応指導教室においては学校への復帰をめざす。		
実施状況	<p>① 豊山町いじめ防止基本方針の策定（平成31年1月）</p> <p>② 学校いじめ防止基本方針の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめはいつでもどこでもどの子にも起こりうる」ことの共通認識 ・いじめ・不登校対策委員会の開催（毎月1回） <p>③ 町いじめ問題等（不登校）対策委員会の開催（3回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導主任・スクールカウンセラー・適応指導教室担当・県家庭教育コーディネーター・担当校校長・教頭・町教委の参加による情報交換と指導 ・「いじめに関するアンケート調査」（3回・無記名式）の実施 ・町作成の保護者向け啓発資料リーフレット（携帯・スマホ含む）『ネットトラブルから子どもを守るために』の配布と効果的な活用 <p>④ 町適応指導教室「しいのき」の取組（小学生2名・中学生4名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校への復帰をめざした入級児童生徒の学習支援や社会適応への取組 		
評価と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめを許さない全校態勢での取組の結果、継続した悪質ないじめはないが、年30日以上長期欠席の不登校児童生徒は、依然多い状況にあるため、相談体制の充実に努める。 ○ 町適応指導教室においては、児童生徒が意欲をもって取り組める多くの活動が企画されており、児童生徒が安心できる心の居場所として大きく役割を果たした。 		

事業3-17	生徒指導の充実	評価	A
目標	非行問題行動等に対しては生徒指導研修を充実するとともに、警察等町内外の学校関係機関と連携し、問題の早期発見と早期解決に努める。		
実施状況	<p>① 生徒指導の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣（挨拶・言葉遣い）の徹底と定着化への取組 <p>② 教育相談の充実（3回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回、教育相談を行い、児童生徒の実態把握に努め、不登校や問題行動の未然防止と、問題の早期発見と早期解決への取組 ・児童生徒の心の居場所となるような学級・学校づくりに努め、児童生徒・保護者との信頼関係の構築 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース検討会（カウンセラーも含める）による情報の共有化 ・スクールカウンセラーとの連携の強化（保護者へも対応） <p>③ 学校関係機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町教育委員会・町福祉課・町保健センター・町適応指導教室「しいの木」・中央児童相談センター・学校医・西枇杷島警察署生活安全課などの関係機関との相互連携を密にした、問題行動への未然・再発防止、早期発見と解決への取組
評価と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学級担任以外との教育相談の機会を設定し、学校全体で情報共有して児童生徒を見守る体制づくりを構築した。 ○ 警察や児童相談所との連携をさらに密にし、問題行動の防止と早期発見への取組を継続していく。 ○ 青少年育成会議による巡回指導が定着し、協力した取組が行われた。今後も、巡回パトロールの実施や自主防災パトロール隊との連携を深めながら、非行問題行動のない安心・安全なまちづくりの維持・継続に努める。 ○ 関係機関との連携のもと、全ての小中学校で落ち着いた学校生活が展開された。

IV 文化財の分野

5年後の豊山町のめざす姿	文化財保護の意識が浸透し、町民と行政が協働で保護に向けて取り組んでおり、郷土の文化財が身近なものとして町民に親しまれるよう、広く活用されている。	総合評価	A
--------------	--	------	---

事業4-1	文化財の調査・保護	評価	A
目標	文化財の調査・研究に努めるとともに、民具などの郷土資料の収集を行うほか、既存の県・町指定文化財の保護に努める。		
実施状況	<p>① 文化財保護審議会の開催（1回） <『まとめ』P55 参照></p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊山町の文化財保護行政について ・令和2年度の取組について <p>② 指定文化財の保護・保存 <『まとめ』P55 参照></p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知県指定文化財（有形2・寺社所有）、豊山町指定文化財（有形3・寺社所有）（記念物2・個人と寺社所有）（無形3・保存会所蔵）の保護・保存 <p>③ 郷土資料の収集と整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民から寄贈された民具などの郷土資料の収集と適切な保存 <p>④ 町史編さん事業 <『まとめ』P57 参照></p> <ul style="list-style-type: none"> ・町制施行50周年に向けた町史の編さん事業 		
評価と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文化財保護審議会において、県・町指定文化財の保存状況を確認した。特に町指定文化財の「楠」に関して、今後の対応策について委員に意見を求めた。 ○ 住民から寄贈された民具などの郷土資料について適切に収集・保存されている。 ○ 町制施行50周年を迎える令和4年度を機会に町の行政史をはじめとした豊山町史の編さんを行う。令和元年度は町史編さん委員会を2回開催し、目次構成及び組見本案の作成を行った。また、資料も広報とよやまで3回呼びかけ、34点の資料を収集した。 		

事業4-2	文化財保護意識の醸成と担い手の育成	評価	A
目標	文化財マップの作成や文化財研究会との連携を通じて、町民の文化財保護意識の醸成を図り、文化財保護を担う人材を育成する。		
実施状況	<p>① 文化財の啓発事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財研究会が作成した『とよやま文化財マップ』の配布と活用 ・身近にある郷土の文化財に気付き、その保護に努める意識の醸成 ・歴史講座の開催（5回） <p>② 文化財研究会の育成と支援事業 <『まとめ』P56 参照></p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土資料室整理、こども広場などの活動、放課後子ども教室での昔遊びの指導など ・現地研修会や学習会の実施 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・「豊山町の神社・仏閣」の冊子作成 <p>③ 歴史講座の開催 <『まとめ』P14 参照></p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容：平成の30年間を振り返ってみよう（全5回）
評価と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 『とよやま文化財まっぷ』は、郷土愛を育むためにも大切な教材である。また、令和元年度に文化財研究会が作成した「豊山町の神社・仏閣」と併せて文化財保護を担う若い世代の人材育成のためにも、指導できる教員の育成と、小中学校での社会科授業での効果的な活用が望まれる。 ○ 文化財研究会による研修会・学習会の開催や特色ある諸活動など、精力的な取組により、文化財保護意識の醸成に大いに寄与した。 文化財研究会は設立当初の目的を達成したため、令和2年3月末をもって解散した。今後は「文化財友の会」として町の文化財保護行政の支援活動を行う。 ○ 歴史講座は「平成の30年間を振り返ってみよう」をテーマに平成の日本と豊山町の歴史を振り返り、郷土愛につながる取組を実施した。

事業4-3	文化財資料の活用促進	評価	B
目標	郷土資料室での郷土資料の展示方法を継続的に改善・充実するとともに、学校教育でも効果的に活用するなど、魅力ある地域社会の創造に向けて郷土資料を有効に活用する。		
実施状況	<p>① 郷土資料室の整理事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常設展の展示（豊山の歴史・民俗） 民家の再現・出土品・古地図・農具・民具・竹細工などの展示 ・郷土資料室の所蔵している民具などの紹介と啓発 <p>② 郷土資料室展示方法の改善事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画展の開催 前期：昭和御大禮の図 展示 後期：お勝手（キッチン）展 ・文化財アドバイザーによる小学生の社会科見学への説明 		
評価と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 郷土資料について、テーマごとに企画展を開催するなど情報発信に努めた。しかし現在の郷土資料室は老朽化で室内が薄暗く入室しづらい雰囲気になっていることや一部展示資料の未整理などもある。このため、気軽に入室できる雰囲気づくりとともに将来的な改修に向けた資料の調査研究を進める。 ○ 郷土資料をさらにPRするため企画展の開催回数の増に努める。 ○ 小学校の授業見学や一般住民で案内ガイドを必要とする人向けに、新設した文化財友の会を活用した新しい案内ガイドの仕組みを作る。 		

V 芸術・文化の分野

5年後の豊山町のめざす姿	芸術・文化によって、町民の豊かな心が養われ、地域社会に潤いがもたらされます。また、指導者の発掘育成や練習場所、発表機会の充実により、自主的な活動を活発に行われている。	総合評価	A
--------------	---	------	---

事業5-1	芸術・文化活動の推進	評価	S
目標	文化振興事業やサロンコンサートを行い、町民に多くの優れた芸術・文化に触れる機会を提供する。また、町文化協会と協力して町民が自主的に行う文化活動を支援し、活動成果を発表する機会を提供する。		
実施状況	<p>① 文化振興事業の推進 <『まとめ』P58 参照></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぐっさんのハッピーオンステージ in 豊山町」入場者数 328 人【前年比 8 人増】文化振興事業サポーター（公募 8 人）によるサポーター会議を 3 回開催し、企画・運営段階からの参画した。 <p>② お昼のときめきコンサート事業の開催 <『まとめ』P58 参照></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6 月「きらめく夏と愛のうた」入場者数 50 人、9 月「伝えたい想い、大切な人へ」入場者数 54 人、12 月「雪の音、鈴の音」入場者数 68 人、3 月「中止」（年 4 回開催） <p>③ 文化展・芸能発表会の支援事業 <『まとめ』P59 参照></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 芸能クラブ 15 団体 350 人が出演 総出品数約 750 点 		
評価と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文化振興事業は、公募によるサポーターの意見や住民アンケートの要望を積極的に取り入れながら町民に質の高い芸術文化に直接触れる機会を提供することができた。 ○ お昼のときめきコンサートは令和元年度から事業の通称をサロンコンサートから改め、ポスターの作成や広報及び町ホームページなどを積極的に活用することにより、さらに町民が気軽に文化・芸術をふれることができる貴重な機会を提供することができた。 ○ 町民の自主的な運営による文化展や芸能発表会、文化フォーラムでの盛会は、芸術・文化による潤いのあるまちづくりの振興に大いに貢献している。 		

事業5-2	文化振興団体、芸術・文化活動グループや指導者の育成と支援	評価	A
目標	町民自らが自由にあらゆる場所、あらゆる機会を利用して芸術・文化活動を行うことができるよう、町文化協会の活動を支援するとともに、芸術・文化グループなどの育成と支援を行う。		
実施状況	<p>① 文化振興団体の活動と支援事業 <『まとめ』P60・61 参照></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文化協会への助成支援（機関紙『ふれあい』発行など） ・ 加盟団体（27 クラブ・合計 338 人）の活動 		

	<p>15 芸能部（豊山木遣保存会・豊山民謡クラブ・豊山太鼓研究会・尾張豊山太鼓・神楽保存会・詩吟教室・やまびこクラブなど）</p> <p>12 文化部（陶芸クラブ・囲碁将棋クラブ・手芸スクール・豊山俳句クラブ・書道クラブ・豊山写真クラブ・絵画クラブなど）</p>
評価と改善策	<p>○ 文化芸術の発展と振興のため、活動している文化振興団体に対して支援を行った。</p> <p>○ 文化協会会員の高齢化に伴い、クラブ数、会員数が減少している。広報とよやま、町ホームページ、とよやまチャンネルなどのメディアを活用して加入促進と次世代の育成を図っていく必要がある。</p>

第四部 学識経験者による評価

豊山町教育事務執行等外部評価委員（敬称略）

前田 治	愛知学泉大学 教授
平手 ゆり子	愛知県教育公務員弘済会 参事

外部評価委員会開催日時

第1回外部評価委員会	令和2年8月3日（月）	14:00～16:00
第2回外部評価委員会	令和2年8月26日（水）	14:00～16:00

1 前田 治 委員による評価

◎ 教育委員会の会議及び活動状況についての評価

I 教育委員会会議の開催と審議状況

- 豊山町教育の大綱に掲げられている「いきいきとした豊かな心をもった人を育む教育」が力強く、教育委員と事務局の積極的な意見交換によって推進されている。S 評価相当にあたると思われる。

II 教育委員の活動状況

- 教育委員による教育活動への積極的な参加、とりわけ学校訪問時の視察や指導は、各学校により緊張感を生み出していると考えられる。また、学期ごとに開かれる校長との合同会議（学校経営の現状報告と情報交換）は、教育委員と学校で共に地域の学校をよくしていこうとする取り組みで、高く評価したい。
- 他の市町との意見交換会議は、よりよい教育を推進するために重要である。できれば会議という枠を越えて、日常的に連絡を取り合うなど、情報交換する機会があればよいと考える。

◎ 主要施策と事業についての評価

I 生涯学習の分野

事業1-1 生涯学習のまちづくりの計画的な推進

- 令和2年度にスタートする豊山町第5次総合計画の「小さくてキラリと輝くまちづくり」の指針を受け、生涯学習を核に据えたまちづくりについて、十分な審議が行われている。また、生涯学習のまちづくり基本構想・基本計画（第3期）のテーマを「いつでも・どこでも・だれでも学べる人が輝く生きがいタウン」と設定し、町民の多様な生涯学習ニーズに対応した内容の充実が図られている。それらが住民本位で分野ごとに計画をされていることは、高く評価したい。

事業1-2 学ぶ機会の充実

- 講座等におけるアンケート調査の結果を踏まえ、それらを事業に反映させていることは、参加者の満足度につながっている。是非、継続し、今後も町民の様々なニーズに応え、学ぶ機会の充実を図っていただきたい。そのことが結果として、町の活性化につながると考える。

- 町職員が講師になり行う出前講座は、町民とのつながりを深め、災害等の緊急時の協力体制にもよい相乗効果を与えると考えられる。

事業1-3 学習活動支援の人的体制の整備

- ボランティアの活用による「ふれあいひろば」での活動は、充実している。
- ボランティアバンクには、講師として様々な分野の方が登録している。それを講師一覧にして、生涯学習情報誌「生きがいタウン」で分かりやすく紹介されている。さらに活用を推進するには、すでに実施されているかもしれないが、地元のケーブルテレビで活動の様子や講師紹介を行い、PRをしていくことを薦めたい。
- 学習活動支援の人材確保と育成は、時間がかかる。人材を発掘し、講師としての活躍場所を確保するなどの地道な継続が必要であろう。

事業1-4 学習情報の提供と学習相談体制の整備

- 学習情報の提供と学習相談体制の整備が、十分に実施されている。S 評価相当にあたると思われる。とりわけ情報提供について、様々な世代の多くの人が訪れるコンビニでの情報誌配布はよいアイデアである。また、メディアの活用も積極的に推進されているなど、評価したい。

事業1-5 学習環境の整備と活用

- 学習環境の整備は、多額の費用を要する。予算との兼ね合いで他の部署、または課内の優先順位などを考慮しなければならない問題である。そのような中であって町民が施設を少しでも活用しやすいように予約システムを取り入れたことは評価したい。
- 航空宇宙関連図書コーナーの設置は、航空宇宙産業関連企業等が多くある豊山町の地域の特色を生かしたもので、評価したい。

事業1-6 読書活動の推進

- 子どもの文字離れが問題視されている中、子ども読書活動推進計画の着実な実行により、おはなし会や絵本の読み聞かせ等、地道な取り組みが続けられている。
- ボランティア団体「ゆめっ子」「読書クラブおひさま」による紙芝居や人形劇は、子ども達にとってよい機会となるのと同時に、ボランティア活動を行う側にとっても有意義な時間になっていると推察できる。

事業1-7 社会体育・生涯学習スポーツ活動の推進

- 愛知県市町村対抗駅伝競走大会において、前年度より順位が上がった結果が得られたことは、今後、町民の注目度も増し、関心が高くなっていくと推察できる。
- 今回は、新型コロナウイルスの影響で「とよやまエアポートビューマラソン」を中止としたことは賢明な判断であった。今後も町のシンボル行事として、さらに創意工夫をして町の活性化につなげていきたい。
- 高齢者向けの競技の紹介・促進は、今後、高齢者が増加していく中、健康の維持管理の意味も含めて、意義深い取り組みになっている。

II 家庭教育の分野

事業2-1 家庭の教育力向上への支援

- 核家族が当たり前になり、子育てについて相談できる機会が減り、悩む親は多いと想像できる。そのような中、乳幼児学級や子育ての参考となった家庭教育講演会は意義深いものとなっている。
- 家族芸術劇場は、入場者が減少したとあるが、1180人参加がある。今後は減少理由を検証し、事前に演劇内容を吟味し継続されるとよい。

事業2-2 地域の教育力向上への支援

- 「ふれあいひろば」事業は、「子どもは地域で育てる」という理念のもと、多種目が展開されている。また、多世代の交流の場にもなっている点、評価したい。これらの交流が、ボランティア指導者の後継者づくりにつながることを期待する。
- 「放課後子ども教室」事業の取り組みは、共働き家庭の子どもの居場所にもなっている。その運営で尽力されている支援コーディネーターや支援員との情報交換の機会を充実させていきたい。

事業2-3 子どもの豊かな心を育む学習支援

- 青少年育成については、積極的な生徒指導としての未然防止が重要である。それに向けた取り組みが学校と地域が協力して力強く推進されており、評価したい。
- 子どもたちが豊かな心を育む目的で行うスポーツ少年団や、子ども会の活動は充実している。とりわけ、ジュニアリーダークラブの活動で育った中高生が、近い将来、町内の様々な分野で活躍することを願う。

III 学校教育の分野

事業3-1 地域に開かれた学校経営の推進

- 学校評価のアンケートや学校関係者評価委員会での意見を参考に、次年度に取り組む内容を重点化するなど、今後も地域により開かれた学校経営に期待したい。
- 地域の学校として、保護者や地域に協力を仰ぎつつ、その声を聴く姿勢は、評価できる。

事業3-2 学習指導・教育環境の整備拡充

- 夏の気温が上昇傾向にある中、熱中症対策等への配慮も含め、全小中学校の普通教室の空調設備工事の完了は、大いに評価したい。
- 予算上の問題が生じるが、校舎の老朽化への計画策定が進められ、学習環境の改善が図られることはよい。子ども達や地域住民が誇りに思う新校舎を期待したい。

事業3-3 特色ある学校教育の推進

- 中学校での全生徒参加のスキー研修は、愛知県の市町村に類のない特色ある体験活動である。この研修は、生徒が歳を重ねても、語られるであろうし、強い思い出になると思われる。今後も継続していきたい。
- どの学校も特色ある学校教育がなされている。今後は、姉妹提携しているグラント郡のジェット機、友好都市の長野県阿智村の星空と豊山町の航空宇宙産業を結びつける「宇宙」というような壮大なテーマのもと、特色ある学校づくりに努めるのも一案である。

事業3-4 健やかな児童生徒の育成

- 学校保健活動・学校安全に関する活動が計画的に推進されている。豊山町単独の支援員の加配は、子どもへのきめ細やかな教育に十分に貢献している。予算問題も絡むが、全小中学校に配置されることが望ましい。

事業3-5 安全で安心できる学校給食の提供

- 地域の伝統的な特色を生かした「どじょう寿司」の提供は、食育を通して郷土を愛する心を育てるという意味においてもよいことである。
- エピペンの必要な子どもや、食物アレルギーをもっている子どもへの最善の注意が払われている。すでに留意されていると思うが、宿泊を伴う行事では、一層注意を払うことが重要である。

事業3-6 教員の資質向上

- 各学校、研究主任を中心に、現職教育計画に基づき研究と修養が実践されている。
- タブレットを活用した教育方法の推進など今日的な教育課題も視野に研修が実践されている。
- 町として教員の自主的な研修を予算面から応援するようなプログラムがあってもよい。

事業3-7 魅力ある教員の養成

- 不祥事はあってはならない。起きた場合は一瞬に学校の信用を失う。そこで危機管理という意味においても、不祥事根絶に向けた研修の実施は意義深い。不祥事根絶のための研修を、事例を基に町内一斉で行うなどして、起こさないという意識を常にもたせたい
- 非常勤講師を対象にした研修会が、充実していることを評価したい。非常勤も含めて学校の教職員であり、一丸となって子どもの教育にあたるためにも重要な研修である。

事業3-8 校務支援の推進

- 教職員の多忙化について、メディアが、ブラック企業のようなイメージを書き立てている。また、そのことが、採用倍率の低下にもつながっている一因であると考えられる。その多忙化の解消に向けて、学校事務の共同実施化・定時退校日・部活なしデー・校務支援ソフトの活用等、積極的に取り組んでいることを評価したい。

事業3-9 教員に対する支援チームの結成

- スクールカウンセラー、PTA・地域の学校支援ボランティアやゲストティーチャー等、多くの協力体制が確立している。このような地域社会や関係機関との連携は、「地域の学校」としての意識を高め、教員にとって心強い。
- 昨今、複雑な家庭もあり、民生委員等との連携も必要である。

事業3-10 キャリア教育の確立

- キャリア教育は「望ましい職業観・勤労観、職業に関する知識等を身に付けさせる」、「自分の個性を理解し、主体的に進路選択する力を育てる」教育である。その推進にあたり、航空関連など豊山町の特色と関連付けた実践が行われている。
- 中学校の職場体験は、教員や受け入れ先の企業等の協力のもと、実践されている。さらに充実させるために、生徒が自ら選択した企業等に訪問して、自ら体験を依頼してくる方法もある。そこで、何箇所も断られる経験をするなどして、働くことの厳しさも実感させたい。

事業3-11 英語教育と小学校外国語活動の推進

- 令和2年度からの小学校英語の実施にあたり、教員の英語の指導力向上は急務である。豊山町の研修は充実しているが、さらに近隣の大学・高校の英語関係者との連携が図られるとさらによりと考える。
- ALTの配置がなされているが、ALTと担任のTTの打ち合わせの時間を十分に確保することが必要である。各学校のALT同士の情報交換の場も必要と考える。

事業3-12 情報教育の推進

- 豊山町は、パソコンやタブレット端末、インターネットなどの情報通信技術を導入するなどICT教育は進んでいる。今後必要なのは、それらを活用した効果的な教育方法の追究である。そのために適切な研修機会の充実が重要で、そのことにより教育の質が向上すると考える。
- 情報技術やサービスの変化、子どものインターネットの使い方の変化に伴い、SNS等に起因する被害は増加傾向にある。そのような中、情報や情報技術の特性（発信情報の拡散、非消去）についての理解に基づく情報モラルを身に付けさせることが重要である。それに対し、携帯スマホ安全教室が保護者も交え、全小中学校で実施されたのは意義深い。毎年実施されたい。

事業3-13 就学援助の充実

- 就学援助の制度について、豊山町の公式ウェブサイトに見やすく表示されるなど、周知が徹底されている。
- 就学援助制度に基づき適正な運営がなされている。

事業3-14 道徳教育の推進

- 道徳教育の要に道徳の授業が据えられているが、道徳の時間が特別の教科として道徳科になり、一層の充実が求められる。地域の特色を取り上げるなど、豊山町独自の教材開発（資料発掘）を進めてもよい。
- 各小中学校で、心を養う様々な体験活動が実施されているので、この体験活動と道徳科を結び付けた授業が充実されるとよい。

事業3-15 学校体育・スポーツ活動の推進

- スポーツは、人間の可能性の極限を追求する営みであり、スポーツに打ち込むことは、体力向上、ストレスの解消、多様な価値観を認め合う機会となる。この意義を認めつつ、過剰にならないようにガイドラインを決めて推進されていることは評価できる。
- 今日、地球温暖化傾向を受け、熱中症で倒れる子どもの数も増加している。是非、その危険度を認識できるように水分補給や休憩時間の確保等、専門家の意見を聴きながら指針を定めてもよい。

事業3-16 いじめ・不登校への対応

- いじめや不登校は、いつでもどこでもどの子にも起こりうる。その危機感を持って対策を進めることが重要である。その点、いじめ問題等対策委員会や適応指導教室「しいのき」が適切に開催されたり、組織的に運営されたりしていることは、評価したい。
- 先の情報教育の内容と深く関連するが、統計的にSNS等に起因するいじめ、そのいじめによる不登校は、小中学校共に、確実に増加している。また、そのいじめは見えにくくなっており、早

期発見に向けて情報交換は欠かせなく、その機会の充実に努めたい。学校だけではなく住民も含めて、子ども達の些細な変化や違和感を見逃さないことが重要である。

事業3-17 生徒指導の充実

- 問題が起きてから対処する消極的生徒指導から、未然防止に重きを置いた積極的生徒指導になるように、今後も努力していきたい。
- 生徒指導で重要なのは、どの子ども善くなりたいたいと思っているということに信じていることである。そのために関係機関との連携や教育相談の充実、そのうえでの情報交換、情報共有は欠かせない。その点、充実した取り組みがなされている。

IV 文化財保護の分野

事業4-1 文化財の調査・保護

- 町指定文化財の「楠」の衰弱について、どのように存続させていくかについて熱心に議論が行われたことを聴き、この一本の木によせる町民の熱い思いを感じた。このことに代表されるように、文化財保護審議会を中心に、文化財の保護保存活動や郷土資料の収集・整備が進められており、S評価相当と思われる。

事業4-2 文化財保護意識の醸成と担い手の育成

- 文化財保護の担い手の育成、要するに後継者づくりは、この分野に限らず難しい課題である。そのような中、文化財保護を社会科の地域教材として取り上げるなど、担い手の育成につながるように学社連携を図っている点、評価できる。
- 郷土愛の面から特別の教科「道徳科」との関連を図るのも一つの方法である。

事業4-3 文化財資料の活用促進

- 郷土資料室の老朽化は大きな課題である。予算のこともあるが、小中学生や一般住民が郷土の文化財資料に触れ、学ぶ場にふさわしい、豊山町らしさを全面に押し出した改修を望む。
- 改修後の案内や、ボランティアの活用も検討していきたい。

V 芸術・文化振興の分野

事業5-1 芸術・文化活動の推進

- より質の高い芸術文化に触れることのできる事業にするために、住民アンケートを実施したり、公募のサポーターとして地域住民を巻き込みながら運営したりする方法は評価したい。
- 町民が芸術・文化振興事業を楽しんでいる様子がうかがわれる。是非、各事業を継続していただきたい。

事業5-2 文化振興団体、芸術・文化活動グループや指導者の育成と支援

- 伝統的な質の高い芸術・文化活動が推進されている。ここでも、後継者づくりは、難しい課題である。地道に、すそ野を広げる活動をすることが重要である。その活動に「誰か一人連れてくる」というような取組みを継続的に行うなど、今後も住民で知恵を出し合い、後継者を育てていきたい。

2 平手 ゆり子 委員による評価

◎ 教育委員会の活動状況についての評価

I 教育委員会会議の開催と審議状況

- 会議の開催数や審議状況が適切であり、教育委員と事務局の意見交換を積極的に行うなど、様々な教育課題に速やかに対応できる組織運営がなされている。
- 議事録など、ホームページでの情報公開も効果的である。

II 教育委員の活動状況

- 学校訪問や校長との合同会議、各種学校行事への参加を通して、教育委員が実際の教育現場を見聞きする機会が大変多く設けられており、本町ならではの委員と学校との密接な関係性が築かれている点が大変良い。
- 県や近隣市町の研修に参加し、教育現況の把握に努め、今日的な課題に対応できる力を身に付けられている。視察研修については必要に応じて検討されたい。

◎ 主要施策の事業についての評価

I 生涯学習の分野

事業1-1 生涯学習のまちづくりの計画的な推進

- 「第2期基本構想・基本計画」のまとめの年度であると同時に、「豊山町第5次総合計画」を踏まえ、新たな理念のもとに「第3期基本構想・基本計画」が策定できたことは大変素晴らしい。「いきいきとした豊かな心を持った人を育むまち」づくりに向け、生涯学習事業を一層充実させたい。

事業1-2 学ぶ機会の充実

- 老若男女すべての人が学びやすい講座や教室が多様に企画され、住民の学びとふれあいの場を提供している点が大変良い。
- 町職員による出前講座や町民アンケートを反映させた講座開設には、生涯学習推進への意欲と創意工夫が感じられ、誠に素晴らしい。

事業1-3 学習活動支援の人的体制の整備

- ボランティアバンクへの登録者数がかかなりあり、「ふれあいひろば」でボランティアが有効に活用されている。対象者が「一般」で日時・場所が決まっていない活動については、個人で依頼するにはハードルがやや高いかもしれない。1～3回程度のお試し活動の機会を設けたり、技能披露の場を提供したりするなど、指導者と受講者をつなぐ工夫があればよいと考える。

事業1-4 学習情報の提供と学習相談体制の整備

- 「生きがいタウン」は大変見やすく分かりやすく編集されており、広報とよやまの「まなびすと」紙面リニューアルも「見たい・知りたい」効果を高めるために有効であると感じた。
- 町ホームページに町公式フェイスブックやツイッターへのリンクが貼られ、スマートフォンやタブレットでも情報入手が容易である点も時流に応じている。トップページに「教育」のタブが

あれば、さらに情報にたどりつきやすいのではないか。

- 「とよやまみんなのチャンネル」は、独自性があり大変おもしろい。町民出演をメインに据え、生涯学習事業や学校生活紹介など、今後も啓発活動に積極的に活用していただきたい。

事業1-5 学習環境の整備と活用

- 社会教育センターは町民の生涯学習の拠点であり、利便性や利用率の高さは誇れるものであるとする。とりわけ、航空宇宙関連の図書コーナーの充実を高く評価したい。
- 学習等供用施設も町民が身近に利用できる施設としてきちんと整備されている点が良い。幼児・児童の安全な遊び場としての機能も十分果たしている。
- スカイプールについては、天候や気象条件によって利用数が増減するのは当然である。盛夏に安全に楽しめる場所が提供されている点が良い。室内プールがあればなおよいのであるが。

事業1-6 読書活動の推進

- 「子ども読書活動推進計画（第二次）」に則り、様々な活動が展開されている。中でも幼児と保護者を対象とした親子読書会やおはなし会は、本に親しむきっかけづくりとして一層重視したい活動である。
- 学校図書室の運営はこれまで各校の司書教諭や図書委員会が中心となって行ってきたものであるが、保護者や読み聞かせグループなど地域住民による図書ボランティアの手を借りることも図書室の整備・充実や教員の多忙化解消に有効である。さらに積極的に活動してもらえよう後押しされたい。
- 若年層の活字離れを防ぐため、社会教育センター図書室に学習相談員を配置するなどして中高生の自主学習の場としての活用を促進する案もある。

事業1-7 社会体育・生涯学習スポーツ活動の推進

- 町民体育大会、愛知駅伝、エアポートビューマラソンなど、町民に愛され応援される活動はこれからも大切にしていってほしい。コロナ禍の終息が切に待たれる。
- スポーツ講座は、町民の健康の維持・増進に大きく寄与している。また、多世代参加型の企画は、町民のふれあいの場としても重要であり、一層の普及を期待する。

II 家庭教育の分野

事業2-1 家庭の教育力向上への支援

- 乳幼児学級は、子育ての不安解消に大いに参考となる。福祉課や保健センターとの連携を図り、父親の育児参加や支援制度の紹介など、内容を吟味して進められたい。
- 家庭教育講演会は、各校PTAの参加者募集に苦慮しているところもあると聞く。小中学校のPTA委員会や入学説明会に出向くなど、小規模の開催に代えてもよいのではないかと考える。

事業2-2 地域の教育力向上への支援

- 「ふれあいひろば」事業は、子どもの居場所づくりに効果的で、今後も継続充実を期待するものである。新たな指導者の発掘に尽力してほしい。
- 放課後子ども教室には、児童クラブとはやや異なるニーズがあることは確かだが、運営はなかなか難しいものだと捉えている。より良い在り方について関係部局と相談し続けていかれたい。

事業2-3 子どもの豊かな心を育む学習支援

- 青少年育成会議を中心に関係諸団体と協力し、青少年の健全育成を目指し、地道に活動を継続されていることに敬意を表する。
- スポーツ少年団は、生涯体育の素地を養うことにおいて歴史と実績を持つ大変有意義な活動である。指導者の力量向上や各チームの発展を願い、一層の手厚い支援を期待したい。
- 他市町では子ども会に入会しない家庭が増え、運営に支障をきたしているところがあると聞くが、中高生を中心としたジュニアリーダークラブを設立し、サポートを進めている点は先進的で、子ども会の活性化につながる非常に良い取り組みである。

III 学校教育の分野

事業3-1 地域に開かれた学校経営の推進

- 学校評価委員会の活動も定着してきており、学校経営の改善に役立っている。学校目標と照らし合わせ、より具体的で明確な評価ができるよう評価項目や内容の見直し・精選を毎年行っていく必要がある。
- 各校ホームページに、地域講師を活用した授業や、地域住民も参加可能な学校行事の様子が多々掲載されており、地域に開かれ地域に愛される学校となるよう尽力されていることがよく分かる。今後も講師紹介、情報提供などの協力支援を期待する。

事業3-2 学習指導・教育環境の整備拡充

- 各校の空調設備工事が完了していることに極めて安堵している昨今である。校内LANの設置やタブレットの導入等、ICT学習環境の整備についても早急に取り組まれている点を高く評価する。
- 「将来的な建替えも含めた改修計画」の策定には、学校関係者一同、多大な期待を寄せているであろう。多額な費用を要することなので困難を極めると思うが、近隣市町の新設校舎等の参観を実施するなど、計画策定に向けて強気に歩みを進めていただきたい。また、長期計画、短期計画が策定された折には、学校関係者への開示を適切に進めていただければ、工事の無駄を省くこともできると考える。

事業3-3 特色ある学校教育の推進

- 航空産業や町の食文化・伝統芸能など、新旧を網羅した学習活動が非常に素晴らしい。とりわけ、学校が企業とのコラボレーションを積極的に取り入れていることは、将来を担う子どもたちの夢や希望を育む効果が高いと考える。
- 中学校では、小学校と比べ、新たな授業を組み入れることは、難しいかもしれないが、キャリア教育とからめたり、行事の中に地域研究を取り入れたりすることでさらに特色ある教育を打ち出すことは可能であろう。
- 中学1年生のスキー研修は、他市町では味わえない貴重な体験活動である。今後も是非継続実施できるよう格別な支援をお願いしたい。

事業3-4 健やかな児童生徒の育成

- 各校で保健学習、安全点検が年間計画に基づき適切に実施されている。また、交通安全や不審者対応など日々の見守り活動が確実に機能しているからこそ、事件・事故が未然に防がれていると言える。

- 障害や悩みを抱えている児童生徒の安全・安心を保障する町支援員、スクールカウンセラーの加配は大変有難い。
- 以前、保健センターの職員が、町で生まれた子やその親を全て知っていることに驚いたことがある。乳幼児期から学童期・少年期までの成長状況について時系列に沿って把握し、相談活動を進めていけば、児童生徒の健全育成に必ず役立つと考える。「顔の見える町」の利点を生かし、子育て関連機関同士の情報交換を一段と緊密にすることをお勧めしたい。

事業3-5 安全で安心できる学校給食の提供

- 地域の特色を生かした食育や食物アレルギー対策が適切になされている。また、新給食センターの稼働ももうすぐである。これまで、工事計画作成、住民への説明・理解など綿密に準備されてきたことを大いに評価する。新システム始動直後は、多少の課題が付き物であるが、センター職員と心をつなげて安全で安心できる学校給食の提供に邁進されたい。

事業3-6 教員の資質向上

- 日々の授業にタブレット等のICT機器やデジタル教科書を活用する教員が増えていると聞く。各校が授業力向上をめざし、校内現職研究に力を入れていることや町の夏季研究協議会での研修の成果が着実に具現化されていると推測する。教員のICT活用能力は高まってきているので、今後は児童生徒自身が情報の真偽を確かめ、情報社会で生き抜く力を身に付けていけるよう、指導方法の一層の工夫改善を期待する。

事業3-7 魅力ある教員の養成

- 平成20年度以降、新規採用者が増え、若手教員ばかりでなく、30代のミドルリーダーとなる教員も育ってきている。不祥事防止はもちろんのこと、多忙化解消に配慮しながら、教員としての資質向上を支援する研修を一層工夫されたい。
- OJTの手法は、現場の実態に即し、移動や準備にかかる時間が少なく済む、教員間の意見交換が活発になるなど、優れた点が多い。教務主任の力の見せ所である。教務主任の頑張りに期待したい。
- 町採用非常勤講師の手厚い配置は、本町の誇りである。児童生徒の気持ちに近い人材がいることで少人数指導や個別指導を適時行うことが可能となり、問題行動件数は、町講師採用以前に比べ、確実に減っている。本務教員を目指す講師にとっても、現場での経験は毎日が研修であり、将来の教員人材育成に貢献していると断言できる。この施策の維持継続は必須である。

事業3-8 校務支援の推進

- 校務支援システム「C4th」は自校内の事務処理のみならず、町内各学校間の連絡調整・情報共有にも有効で、教員の負担軽減に役立っている。導入開始から十数年経過し、成績や保健データの処理など、なかった時代には戻れないと思うほど、機能が充実されてきている。在宅勤務を余儀なくされる場合に備えリモートシステムとしての使い方を練習してみてもどうであろう。
- 「定時退校日」「部活の休業日の設定」など近隣市町各校の足並みが揃ってきたことにより、教員の多忙化解消に一定の効果が得られている。共同学校事務室の例規整備により事務職員の負担軽減も可能となった。教育委員会のリーダーシップが最も発揮される場面で適正な判断がなされた点を高く評価する。

事業3-9 教員に対する支援チームの結成

- 児童生徒の不登校・問題行動の裏には、育児放棄などの児童虐待や貧困、発達障害が隠れているケースが高い割合であると聞く。本町の場合、地域ボランティアによる学習支援・安全支援はかなり充実しているため、児童生徒及び教員の「心の問題」の解決にあたる支援チームの結成が次の課題となろう。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、生徒指導主事、特別支援学級・通級指導担当教員、適応指導教室、民生・児童委員、福祉担当職員、特別支援学校、医療機関、児童相談所、警察署等、ケースに応じた専門機関との連携が必須である。問題が生じた折には、これら諸機関の連携窓口として、教育委員会が、迅速かつ的確に対応策を指示していただけると有難い。

事業3-10 キャリア教育の確立

- 各小学校とも本町ならではの出前講座や体験活動が実施されており、低学年からキャリア教育が推進されている点は素晴らしい。
- 中学校2年生の職場体験は、勤労観や職業観を身に着けるのに最適な体験となる。学校は、協力企業や店舗の選定・依頼などで苦心することが多いと聞く。ここは産業・都市政策課や町商工会議所など関係機関との連携が必須である。すでに実行済とは思いますが、賛同企業の情報入手や協力依頼が速やかに進められるよう引き続き手助けをお願いしたい。

事業3-11 英語教育と小学校外国語活動の推進

- 小学校英語の教科化に伴い、ALTや外国語専科教員の配置に尽力された。小学校1年生からネイティブ英語に触れられることは、大変よい。
- 空港の町であるとの自負の下、町民は国際的に活躍する人材に憧れを強く持っているように感じる。英語を話す必要性を感じる機会が多いほど、学習意欲は高まるため、グラント郡訪問団との交流やホームステイ支援など、国際交流を積極的に後押ししていただきたい。

事業3-12 情報教育の推進

- 昨今SNS上での誹謗中傷やネット警察など、情報機器を便利に使えるようになった反面、負の側面が問題になっている。児童生徒を「情報被害者にも加害者にもしない」ために、情報モラル教育は道徳教育と並行して行うことが望ましい。WEB上に優れた教材がたくさんアップされているので、すべての学年で担任主体の情報モラル関連の授業をどんどん進めるよう助言していただきたい。
- 保護者向けの情報モラル教室も意義深い。「ネットトラブルから子どもを守るために」のリーフレット作成・配布は時々内容を改定しながら、今後も是非続けていただきたい。

事業3-13 就学援助の充実

- 従来より、本町は行政の住民支援が手厚く、外国籍の児童生徒への支援も充実している。全国的に貧困家庭の増加が懸念される中、引き続き親身で細やかな相談活動を通して、就学困窮者を救っていただきたい。

事業3-14 道徳教育の推進

- 道徳の教科化に伴い、「考え議論する道徳」の授業をどの学級でも実践できるよう授業公開や参観を通して指導方法の工夫改善を図り、適切な評価の在り方について理解するなど、校内研修

に引き続き力を入れることが望ましい。

事業3-15 学校体育・スポーツ活動の推進

- 昨今の異常気象や活動時間の制約など、学校における部活動の扱いは厳しい状況の中にある。かつての熱い指導を望む声もあるであろうが、児童生徒の健康安全は何にも増して大切である。「部活動指導ガイドライン」に則り、西春日井地区内がほぼ同一歩調で活動できている点がよい。勝利至上主義から脱却するため、外部指導者に対する研修も企画されるとよいと考える。

事業3-16 いじめ・不登校への対応

- 「いじめを許さない」という認識を児童生徒、教職員、保護者が常に持ち続けていることでいじめの早期発見・解決が可能となる。定期的な相談活動や日頃の行動観察を怠らず、親身な対応を引き続き実行されたい。
- 集団での活動に非常な苦痛を感じる子どももいるので、個別指導教室や適応指導教室など教室以外の場でも個に応じた学習が進められるよう支援方法を工夫されたい。例えば家から出られない心理状態のときにリモート学習を行えるシステムがあるとよいのだが。

事業3-17 生徒指導の充実

- 家庭環境や社会状況の変化に伴い、接する大人の数が少ないため、多様な価値観が醸成されず、少しのことで不安を抱えたまま過ごし、心が傷つく子どもが増えたように感じる。それゆえ、保護者や担任以外の大人と話せる場を設定することは大変有意義である。町内全小中学校で落ち着いた生活がなされていることは、生徒指導体制や町民の見守り活動が適切に機能しているからに相違ない。
- ただし、児童生徒が危険にさらされている場合は、児童相談所や警察署への通報をためらうことなく行えるよう日頃から周知徹底しておくことも大切である。

IV 文化財の分野

事業4-1 文化財の調査・保護

- 町内には貴重な文化財が結構多く存在する。それらの保護・保存には専門的な知識が必要であろう。文化財保護審議会が有効に機能しているとともに、町史編纂に向け意欲的に活動を進めている点を高く評価する。

事業4-2 文化財保護意識の醸成と担い手の育成

- 文化財研究会が作成した「とよやま文化財マップ」及び「豊山町の神社・仏閣」は、後世に残る貴重な資料であると言える。学校で地域学習を進める上でぜひ活用し、文化財保護の機運を高めたい。
- 歴史講座も対象を変えたり、出前講座にしたりするなど、工夫を凝らして是非継続されたい。
- 無形文化財の保護については、なかなか担い手が育たないという悩みはどの地域でも持っている。後継者育成に積極的にかかわっていく必要がある。ただ、生活に密着していない芸能は消えていく運命にあるかもしれないが、その前に動画での保存・配信を進んで行っていただきたい。

事業4-3 文化財資料の活用促進

- 郷土資料室は住民が訪れやすい場所にある。改善策にあるように企画展の開催、展示方法の改

善、施設の改修などに力を入れ、気軽に入室できる雰囲気づくりを鋭意進められたい。そのためには「文化財友の会」の協力を得るなど、人材確保が前提として必要であろう。

V 芸術・文化の分野

事業5-1 芸術・文化活動の推進

- 町民アンケートの結果を事業に反映させている点がよい。文化振興事業サポーターの参画も大変意義深い。
- 文化展は、毎年多くの住民の参加し、文化交流の場として大変活況に満ちている。楽しく芸術文化に触れられるこの事業を今後も大切に運営して行ってほしい。

事業5-2 文化振興団体、芸術・文化活動グループや指導者の育成と支援

- 文化協会への加盟団体が多く、活発に活動されている様子がわかる。会員の高齢化による会員数の減少は否めない。若者のダンスチームやアニメ同好会のような新しい団体を察知し、加入を提案していくことができればよいと考える。広報やとよまチャンネルでの活動紹介は、どんどん進めていただきたい。